

平成 18 年度当初予算 重点プログラム別概要

絆 3 : 熊野古道の保全と活用による地域活性化プログラム

(主担当部 : 政策部)

- (1) 世界遺産(熊野古道)対策推進事業
- (2) 熊野古道集客交流推進事業
- (3) 熊野古道中学生等交流事業

< プログラムの事業費 >

(単位 : 千円)

	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	3 か年計
当初計画	825,792	1,809,000	543,000	3,178,000 程度
見直し後	301,840	1,203,886 (22,748)	1,543,544	3,049,270

注 : 「見直し後」の 16 年度は決算額、17 年度は予算現額、18 年度は当初予算額

17 年度 () は、16 年度からの繰越額で予算現額の内数

< 事業目標 >

目標項目		平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
(1) 熊野古道の来訪者数	目標値	1 5 万人	1 7 万人	1 8 万人
	実績値	1 6 万人		
(2) 東紀州地域の宿泊者数	目標値	2 5 万人	2 7 万人	2 9 万人
	実績値	2 4 万人		
(3) 中学生交流会・発表会への参加学校数	目標値	5 校	7 校	9 校
	実績値	4 校	9 校	

注 : 17 年度実績値は 1 月末現在で把握できる見込み値

< 進捗状況 (現状と課題) >

- ・ 「熊野古道アクションプログラム」の改訂作業で明確になった、「価値に気づく」「守り伝える」「伊勢路を結ぶ」の 3 つの目標に向けて取り組んでいます。
- ・ 住民、市町村と協働して策定した「熊野古道アクションプログラム」の考え方を基本に引き続き熊野古道の保全と活用に取り組んでいくとともに、熊野古道は世界遺産として東紀州地域のみならず県民全体のかげがえのない歴史的・文化的遺産であるとの認識やその理解に努めていく必要があります。
- ・ 世界遺産の熊野古道を始めとする様々な地域資源の有効活用策を展開し、集客交流を推進して、東紀州地域の活性化につなげることが課題となっています。
- ・ 熊野古道をテーマとした教育活動を実施し、その取組の成果を中学生が発表する場として交流会を開催しました。また、中学生が体験活動を通じて、熊野古道の恵まれた自然や歴史・文化等について理解を深めるとともに、PR用のCMを作成し、そのすばらしさを学校や地域に発信しました。

<平成 18 年度の取組方向>

18 年度は、「伊勢路を結ぶ」をテーマに多くの人々が協働して地域づくりを進めることを支援するとともに、熊野古道伊勢路の魅力を発信するための「熊野古道ツーリズム」を推進していきます。また、地域の活性化を図るため、熊野古道センター（仮称）の整備を進めるとともに紀南集客交流プロデュース事業、紀南中核的交流施設の整備支援等に取り組みます。

<主な事業>

世界遺産(熊野古道)対策推進事業【18 年度当初予算額 33,324 千円】

平成 16 年度に世界遺産に登録された熊野古道の保全と活用のため、「熊野古道アクションプログラム 2」の着実な推進を図り、地域の活性化につなげます。

紀南集客交流推進事業【18 年度当初予算額 22,929 千円】(事業(2)の一部)

「紀南地域の振興策」を基本として、熊野古道を中心とした地域資源の活用を図りながら、集客交流の基盤整備や体制づくりを進めます。

中核的交流施設整備事業【18 年度当初予算額 55,799 千円】

(事業(2)の一部)

「紀南地域の振興策」に基づき、集客交流の推進に向け、引き続き中核となる交流施設の整備に取り組みます。

県営中山間地域総合整備事業（公共事業（活性化施設整備事業））

【18 年度当初予算額 241,500 千円】(事業(2)の一部)

「紀南地域の振興策」に基づき、中核的交流施設整備事業と調整を図りながら、一体的な整備を行うことで、効率的、効果的な施設となるよう配慮し、活性化施設の整備に取り組みます。

熊野古道センター(仮称)整備事業

【18 年度当初予算額 1,188,294 千円】(事業(2)の一部)

東紀州の集客交流のための情報拠点となる熊野古道センター（仮称）の建設工事、展示工事、資料収集などの事業を進め、平成 19 年初頭のオープンを目指して、整備を推進します。

熊野古道中学生等交流事業【18 年度当初予算額 1,698 千円】

県内の中学生が、熊野古道の恵まれた自然や歴史・文化等について、理解を深めることができる教育活動を行うとともに、体験活動等の交流会を開催します。